平成８年度漁場保全対策推進事業調査結果（海面・陸奥湾）（要　　約）

今井美代子・松原　久・仲村　俊毅
調査船なつどまり（浜田勝雄・長津　司・吹越弘光・逢坂健幸・本堂洋一）

この事業は、漁獲対象生物にとって良好な漁場環境の維持、達成をはかるため、陸奥湾沿岸域における水質環境の現況調査及び底生生物調査（底質調査を含む）から底生生物の種類、現存量を指標とした陸奥湾沿岸域の漁場環境の長期的な変化の監視を目的として実施するものであり、本年度が初年度である。

なお、詳細については、「平成８年度漁場保全対策推進事業調査結果報告書（海面・陸奥湾）」として報告済みである。

調　査　内　容

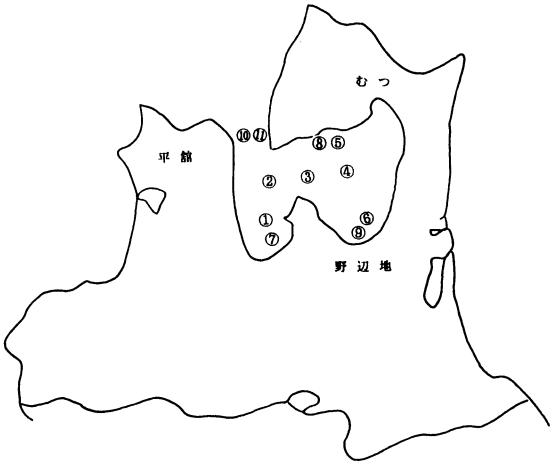
１．水 質 調 査

(1)　調 査 点：湾内Stn.１～９の９点、湾口部Stn.10, 11の２点、計11定点。（図１）

(2)　調査回数：毎月１回

(3)　調査項目：気象、海象、水色、透明度、水温、塩分、溶存酸素、栄養塩。

(4)　調査水深：水温、塩分は０ｍ，５ｍ，10ｍ以深は底層（底上２ｍ）まで10ｍ間隔。
溶存酸素はStn.１～９の20ｍ層と底層及びStn.２と４の５ｍ層。
栄養塩はStn.１～11の20ｍ層と底層（ただし、Stn.８は水深17ｍのため底層のみ）



図－１　水 質 調 査 点

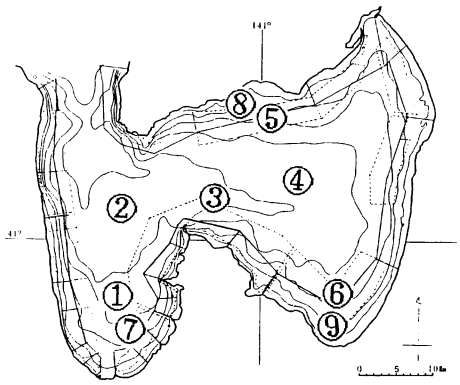
２．底生生物調査

(1)　調 査 点：湾内Stn.１～９の９点（底質調査）Stn.７～９の３点（底生生物調査）（図２）

(2)　調査回数：年２回（７，９月）

(3)　調査項目：気象、海象、水温、塩分、溶存酸素。

(4)　調査水深：水温、塩分は０ｍと底層（底上２ｍ）。
溶存酸素は底層のみ。



図－２　底質、底生生物調査点

調　査　結　果

(1)　陸奥湾における８年度の水質環境

水温は、４月以降平年より低めに推移したが、10月はほぼ平年並み、11月以降は平年並みまたは、高めに推した。

塩分は、10月以降、平年に比べて高めに推移した。

(2)　底質調査結果

含泥率、ＴＳ，ＩＬについては７月と９月で大きな変動は認められないが、ＣＯＤについては、７月の最高値が 5.24mg／ｇであったのに対し、９月は1.23～34.6mg／ｇと数値が上昇し、また分布の傾向も異なった。

(3) 底生生物

生息密度、湿重量とも９月よりも７月のほうが高い値となった。